

女性座談会

女性活躍推進の最前線

丹波市役所で活躍する女性職員による座談会。

入庁の決め手や職場の魅力、仕事のやりがいなど、丹波市役所で働く中で感じている思いについて、女性ならではの目線で語り合っていました。



松木 (総合政策課)
平成25年採用

デジタル技術を活用して組織や社会の変革を促すDX分野のリーダー。

前向きな姿勢と努力と才能で、ハードな仕事もスマートにこなし、誰もからも頼られる存在。仕事もプライベートも充実していて、休日は温泉旅行を楽しんだり、養蜂に挑戦したり。

寺内 (総務課)
平成25年採用

何事も常に「+改善」の視点に立って自ら考え行動する、どんな部署でも重宝される存在。4月から法制担当となり、確実な正解のない例規審査において葛藤しながらも、持ち前の調整力と強い包容力を生かして日々奮闘中。頼れる姐御肌として頭角を現しつつある次世代のエース。

澤田 (税務課)
令和2年採用

表情豊かに、場の空気を楽しく和ませることが得意。主に土地の評価と課税にかかわる事務を担当している。自分自身が学生だった頃の気持ちを忘れず、市民の視点で市民に寄り添う対応を心がけている。休日に友人とランチに出かけたり、畑で野菜を作るのが趣味。

古川 (観光課)
令和4年採用

入庁2年目にして観光分野のエースと評されるしっかり者。日々気づきの発見と発信を大切に活躍中。オフの日は、市内外問わず観光地をめぐり、観光客が楽しんでいる姿を見るのが楽しみ。友人とランチや買物を楽しんで、ゆったりと過ごすのも好き。

1 丹波市役所に入庁を決めた理由は



寺内

地元が丹波なんですけど、言ったらいけないかもしれないけど、市役所に入りたいっていうことよりも、丹波市にいたいっていうことで仕事を選ぶ中の1つでした。

もともとは人と関わるような仕事がしたいなと思っていたので、いいかなと思って決めました。



澤田

私は武庫川女子大学に行っていたとき、インターンシップで市役所を体験させてもらって、それで市役所の仕事に興味を持ったっていうのは大きいかもしれないです。



古川

私は前職が旅行会社で、コロナ禍で旅行の仕事が少なくなって、行政の方と仕事をするのがかなり増えました。ワクチンの運営であったりとか、GoToトラベルの事務局運営とかそういうのがすごく増えていって、自分の今後のキャリアを考えたときに、市役所の仕事もやってみたいなというふうに思って、丹波市に限らずいろんな自治体を受験しました。

あとは「帰ってきたい枠」というのができた年でした。そういうユニークなところも目を引きました。



松木

私は大学を出てから、ベンチャーのIT企業におりまして、いろいろと仕事をする中で、・・・なんていうか、すごいガツガツお金を取ってくるみたいな、利益を追求する仕事じゃない方が自分に向いているかなと思って、どっちにしろ3年で転職をしようと思っていたので、その転職先の1つで市役所を受けて、受かったので、帰ってきたっていう感じです。



澤田 私も民間で働いてたんですが、やめるってなったときに同期の子に、公務員とか向いてると言われたのが自分の中ではすごく大きかったのもあって、「ありかも」って思って、すごい背中を押されたのがきっかけです。

自分のことよく見てくれている子が言ってくれて。第三者の視点ってすごい大きかったかもしれん。

2 入庁後に感じる丹波市の魅力は



古川 今は観光課ですので、いろんな取材だったりとか、イベントとかに行くことがあるんですけど、京阪神の方が週末とか大型連休に、のんびりリフレッシュしに来るような、美しいこの環境の中で仕事ができるっていうのは、それだけすごく素晴らしいことだなというふうに思いましたし、今私が所属をしている観光課は、民間企業出身が1人とか2人しかいなくて、その民間出身っていうところで変なフィルターとかもかけられずに、排除することもなく、お話も本当に意見としてちゃんと聞いてくれる雰囲気もありますので、すごく仕事やりやすいですね。



松木 もともと市役所は「こういうイメージ」みたいなのが全然ない状態に入ったので、ギャップは正直あんまりわからないんですけど、部署がたくさんあるので、いろんなタイプの人がありますよね。ずっと作業服みたいな人とか、女性でもずっと働いてはる人もいるし、転職しはった人もいるし、お母さんになった人とかいろんな人がいるので、働き方のロールモデルみたいな人はいっぱいいますよね。こうなりたいっていう人もいるし。



寺内 うち、おじいちゃんがもともと町役場の職員で、仕事の話聞いたことはなかったけど、きちりしている感じで、絶対悪いことしたらあかんみたいなとこで育ってきて、めっちゃ固いイメージで市役所に入ったんですけど、確かにせなあかんことはせなあかんし、ちゃんとせなあかんところ守らなあかんところはたくさんあるけど、その中で人対人っていうところは、いろんな人がいらっやって、面白いなっていうふうに思いました。

皆さん、教えてって言ったら教えてくれるし、そこら辺はいい雰囲気を作ろうと思えばつくれるところかなっていうふうに思いました。



澤田 小中高と丹波市にいて、大学だけ市外に行ったんですけど、長く丹波市にいたはずなのに丹波市のことを全然知らなかったんやなっていうのを、働き始めてから思いました。

最初の部署がちょっと特殊で、「ちーたんの館」だったので、ちょっと恐竜に偏りすぎてるかもしれないですけど、丹波市のことを知る中で、自分がこんなにおったのに何も知らなかったって思うぐらい、丹波市のいいところたくさん発掘できるなって思ったのは、すごいギャップというか、魅力と思いました。

3 仕事でこれまでに経験した壁は



寺内 農業関係の仕事でやった農（みのり）の学校は、初めての事業で、例がないことで、何をどうしていったら進むのか、分かってる人がいない中で1から作り上げていくってところをやったのは、すごい勉強になっていい経験さしてもらったなっていうのが、ありますね。

その中でいろんな、部署とか、地元の人とか、業者さんもやし。いろんな調整と、それぞれの思いをどこまで汲むのか、市としてどうしたいのかみたいなところっていうのを考えた上で終着点を見つけないといけないところやったので。

いろんな怒られ方もしたし、いろんな文句も言われた中で、でもいろんな人に助けてもらいながらその事業の形としてできたのは、すごいいい経験させてもらったなって思ってます。面白かったです。

農の学校に来る方たちは、仕事をやめて農業するっていう、人生かかってるところに一つの大きなものを作ってしまってるので、その責任感っていうのは、私なりに思ってたところがあったので、最初めっちゃ嫌やったんですよ。それを主担当で関わるっていう。

けど課長が「こんな仕事に携われる機会なんか今後そうそうないし、そんなん自分1人でするんじゃないんや」っていう話をしてくれて、頑張ってみようと思って。

頑張れたっていうのは大きかったし、先ほど言ったみたいに楽しかったっていうのは、やっていく上で大きかったかなと思います。

多分途中で嫌になっとなったら、できひんだかなって思います。





松木 私入ったところが子育て支援課で、子ども子育て支援法が始まったばかりで、土日もずっとどっちかは出なあかんみたいに忙しくて、そのあと農業関係に3年いて、それも事務職で入ったはずなのに、ずっと現場に行かなあかんみたいな、火・木ずっと田んぼに行くみたいな。

そしたら、次は広報に行って、広報は土日がそれこそ戦場やから、そこで3年もりもり働いて、私的にはちょっと体力的にもしんどくなってきたので、異動を希望しました。

今はもともと情報の仕事をしていたというのもあって、情報管理の部署にいます。配属って自分の力ではどうしようもならない部分ではあるんですけど、異動希望制度があって、比較的丹波市はそういう、人にやさしい職場なんやろうなと思います。



澤田 私の壁は今なんです。というのも、もう業務内容がガラッと変わってしまったのと、あと1年目の部署が特殊だったので、小さな事務所で家族みたいにして仕事してたのが、たくさんの方がおられる本庁に来て、その中でも大所帯の課で。業務内容も理解するのに必死で、期限のあるものをしながら、日々新しいことを覚えていかなければいけないっていうのもあって。

でも今まで関わってきてくださった方が本庁にもいらっしゃって、電話でしか話したことないけど「あの人や！」みたいな人はたくさんおられて、本当にね、そういう方々との人間関係を大切にして、「1人で抱え込まない!」、支援してもらえるように助けを求めて、困ったことは相談する。そういうことが大事なのかなと思っています。



古川 私は、どちらかという、基本ストレスはたまらない（笑）多分まだ壁に当たる前段の仕事しかやっていなくて。でも民間企業、なおかつゴリゴリの営業会社の営業担当だったので、そこでの考え方と、市役所で仕事をする上での考え方って全く違う。

そのゴリゴリの営業会社の営業は嫌だったわけでは決してなくて、結構好きで。初めはやっぱその考え方の差に戸惑いましたね。

民間の場合、会社にもよりますけど、基本的には取捨選択しながら、効率よく費用対効果を見ながら捨てるところは捨てながら仕事をしていかないと会社がつぶれちゃうので。市役所の場合は、合議とか、いくつもの協議とか、そのせいで今いけたらナイスタイミングなのになっていうことを逃してしまったり、そこまでその意見聞くのかっていうようなかなり少数派の意見も、とりあえずは捨てない、切り捨てない。そういうところは壁ではないんですけど、自分の中のフラストレーションには感じました。

でも、これからまた仕事をしていく中で、何か工夫できることを工夫していったら、効率上げられる部分もあると思うので、そこは上司に相談しながらやっていこうかなと。

4 仕事を通じて成長したことは



寺内 事務の内容で、物の見方を変えないといけないって分かったことかなと。最初事務やったんです。この申請書が来たらこう処理する、そこが間違いあってはならんっていうところにいて、次が農業で、補助金とかもあって事業を動かしている。

事業を動かすには答えがないので答え探しに行かんとあかんし、考えなあかんし、同じようにルールがこうやからって言って進むもんでもないし、もう考え方変えんと仕事できひんって思った。いろんな見方をせんと、進んでいかへんねやろなって自分の中で思えたっていうのは大きいかなって思ってます。

正解は多分なくて、自分がどんだけ柔軟になれるかっていうところも大事かなって思ってます。さっき古川さんも言われたように、変えていかなあかんところは絶対あるし、それを変えていこうとできるかどうかっていうところも、大きいって思います。部署的に私、経験めっちゃ薄いので、他のところになるとまた違った見方とか考え方とかっていうのを、その都度覚えていかんとあかんねやろなって思うんですけど、そういう考え方をせなあかんって、早いうちに分かれたっていうのは、今後この仕事を続けていく中では、楽しく仕事していく上では、大事なことかなっていうふうに思いました。

松木 ずっと忙しかったので、たくさんの仕事をさばくために、計画を立てるとか、先を見越すとか、周りを巻き込むとか、うまくこう動いてもらうとか、そういう、力がついたかなと思います。





澤田 恐竜課の時ですが、課長、係長、私みたいな感じで。職員が少ないところだったので、浅いけど広くみたいな業務の仕方をしないといけなかったんで、同時並行に仕事をするできるようになった。いろんなタスクをいっぺんにするのが苦手なんですけど、できるようになったかなっていうのと、係長と課長を除いたら自分しかいなかったんで。

もう自分がやらへんかったら決裁上がらへんですし、全部が止まってしまうので、責任感がすごいなんか、私しっかりせんと、って。粘り強さみたいなものとかも磨かれたかなって思います。

古川 思ったよりも自由。権限もけっこう与えられて、いろいろと自分でやらせてもらうことができているんですけど。30歳を超えて、社会人枠として採用されてる意味みたいなものを昨年から考えてまして。どうしてもずっと同じ市役所にいると見えてこない部分だったりとか、観光って外部の目線がすごく大切な部分だと思いますので、自分が気が付いたことはガンガン発言をするようにしてまして。組織が変わるきっかけになればいいなあと考えながら。

あとは民間企業で働いてると、20代中盤ぐらいから50歳ぐらいの方と一緒に仕事をするようなことが多かったんですけど市役所の場合は、下が18歳から、上は多分70歳ぐらいまでいらっしゃって、本当に自分のその親とかよりも上の年代の方と、実際にその仕事をしたり、逆にすごい若い方と仕事をしたりすることで、いろんな方の考え方とか感覚とかに触れることができたっていうのはすごい貴重な機会だと。

5 自分自身の将来、キャリアについて

古川 近い将来だと、2025年の万博に向けて、今年と来年はいろんな事業の検討と、いろんなところの調整でめちゃくちゃ忙しいことにはなってるんですけど、万博にむけて丹波市が世界にPRできるように、まさに前職が活かせることだと思いますので、集中して頑張りたいと思ってます。

ただ、新入職員は3年で異動すると言われてますので、次自分がどこに行きたいかなって考えたときは、職員採用に関わる仕事をしたいと思ってます。



松木 最近、家族が増えまして。

できれば仕事は続けたいなと思っておりますので、ちゃんと決められた時間で仕事をきちっと終わらせて、帰れるように、でもちゃんとやるっていうの、やってきたいなと。丹波市は休暇制度とか働き方とか、いろいろ働きやすいですね。

澤田 最近、友達とご飯とかに行くと妊娠しましたとか、子供が2人いて、とかいう人が増えてきて、私だけがなんかちょっと違う感じになってきているのを感じています。

そういうことがあって、何か今まではずっと新入気分って言ったら駄目なんですけど、仕事だけやってれば、一生懸命やってればいいんやっていう頭やったんですけど、そういうライフステージとかも考える時期になってきたんかなっていうのをすごく考えます。

結婚したら仕事はどうするのかとか、でも、選択肢がある職場やと思うんで、続けるってことが選べる職場やと思うので。ロールモデルの方がいらっしやいますっていう話があったと思うんですけど、そういうのも身近で見ててこういうふうにな産休に入っていられるんやなみたいに見ていたら、自分の時もイメージができるっていうのがあって。

そういうところは、丹波市だったら続けられるかなとか、自分がお母さんになったらこうかなとかを考えられるような職場というのはいすごいと思ってます。





寺内 私はもっといろいろな経験をして、いろいろな部署を見たいなって思います。

何が向いてるかっていうのは、いまいち自分のことあまりわからへんで、いろいろな部署があるので、いろいろな仕事とか。そこで見えるその丹波市のこととか、いろいろ見て、それがゆくゆくは将来に何かに生かせればいいかなって思います。

5 学生の皆さんへのメッセージ

寺内 働くってということが未知の世界。バイトしとったとしても。

何かこれがやりたいとか、ここでやってみたいみたいなことがあると、そのあと強いんじゃないかなって思うので、そういう心引かれる何かがあれば、そこに飛び込んでいけたらいいなと。

そういう視点を持ってお仕事選びするのもいいのかなって思います。

もうちょっと早く帰れると思っていた（笑）

松木 そんなことなかった（笑）

そういうのも目的にして入ろうとすれば、思ったのと違うってなる人がいるかなとか思います。ただ、男女の差別がないのは良いところだと思います。

古川 仕事から、丹波でお店をされている方、新聞社の方とか、いろいろな方とお話する機会があるんですけど、皆さんやさしい。関わる方がすごいおせっかいすぎるぐらい親切な感じがあって、すごい温かい気持ちです。

あと、意外と神戸・大阪まで1時間半ぐらいで行けるので、休みの日に買い物とか、学生時代の友達に会うとか。もう全然できるので、その辺は駄目なところはないかなって言うふうに思います。

澤田 丹波市を受ける学生の皆さんへというより、もうすべての学生の皆さんみたいなことになっちゃうんですけど、私は学生時代の就職活動が良かったというか、頑張りすぎて良かったイメージがすごくあって。

でもすごい大きな分岐点でしたし、あれだけたくさんの企業を調べて、しかも面接とかでこんな雰囲気なんやっっていうのを見さしてもらって、一生の中でなかなかなくて。めっちゃくちゃしんどいんですけど、すごく貴重な時間やと思うんですよね。

なので感じ取った雰囲気とか自分の感覚に敏感になってもらって、そういう自分の「ここに入りたい」みたいな感覚とか、「こういうところがよかった」というのに少しでも近づいてもらえたらいいなっていうので、応援したいというか、つらい思いをしている人も多いと思うんですけど。

いい未来があるように頑張ってもらいたいと思います。

